

2022年7月29日 第51回研究報告会 山内所長 挨拶

運輸総合研究所所長の山内でございます。

本日は大変お忙しい中、2日目の研究報告会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

さて、私からは、本日の研究報告2本について簡単に解説をしたいと思います。

最初の発表は、小林 渉研究員より「働き方の多様化を考慮した新たな都市鉄道運賃に関する基礎的研究 ～柔軟な定期券サービスに着目して」について報告いたします。

COVID-19による社会構造の変化により働き方が変化し、都市鉄道利用者の行動パターンも大きく変化していますが、都市鉄道の運賃は大きく見直されていません。本日の報告では、国内外の運賃に関する事例を収集し、利用者視点で望ましい都市鉄道運賃を検討するとともに、運賃導入による利用者の行動変化についてもシミュレーションを行っています。

コメンテーターは、日本大学経済学部の手塚 広一郎(てづか こういちろう)教授です。交通経済学、産業組織論がご専門でいらっしゃいます。どうぞよろしくお願い致します。

休憩を挟んで、二番目の発表は、マハルジャン ラジャリ 研究員からの報告で、「日本企業におけるロジスティクスおよびサプライチェーンのレジリエンス戦略の実施についての調査研究」についてです。

COVID-19による産業や物流へのグローバルかつ広範囲な影響により、物流とサプライチェーンのレジリエンスの重要性がこれまで以上に浮き彫りになっています。本日の報告では、日本企業の物流とサプライチェーンの強靱性向上に寄与することを目的として、業種の異なる日本企業を対象にアンケート調査を実施し、物流・サプライチェーンの戦略の実施状況、COVID-19がもたらした影響に関する分析結果について報告します。

コメンテーターは、東京都立大学システムデザイン学部 開沼 泰隆(かいぬま やすたか)教授です。サステナブルやグローバルサプライチェーン、オペレーションズ・マネジメントがご専門でいらっしゃいます。どうぞよろしくお願い致します。

以上が本日の研究報告の内容となります。

長時間ではございますが、お時間の許す限りご参加いただければ幸いです。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

以上